



エコアクション21
認証・登録番号 0004069

環 境 活 動 し り 報 告

対象期間：2013年4月～2014年3月

神奈川スバル 株式会社

作成日：2014年9月1日

【1】 会社概要 (平成26年3月31日現在)

(1) 事業所名

神奈川県スバル 株式会社

(2) 所在地

神奈川県横浜市港北区新横浜 1-18-1

(3) 代表者氏名

代表取締役社長 笠島 三千雄

(4) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 管理副本部長 新江 誠

E A推進事務局 総務部 田中 幹男

連絡先 電話 045-478-3611 FAX 045-478-3648

Eメールアドレス m-tanaka@kanagawa-subaru.co.jp

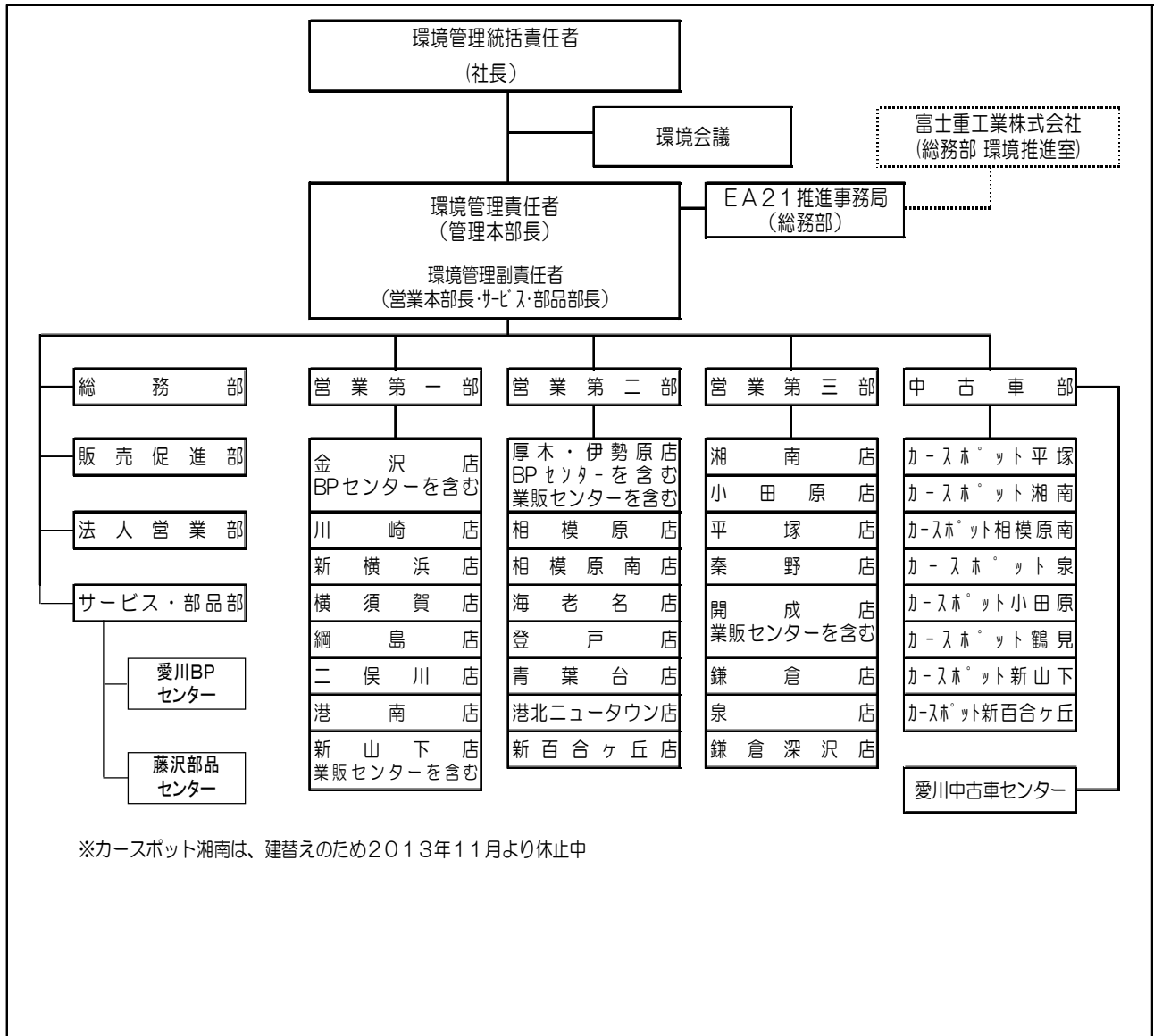
(5) 事業の内容

1. 自動車の販売 2. 中古自動車の販売 3. 前各号に関する部品・用品の販売および修理 4. 自動車の修理 5. 損害保険代理業および自動車損害賠償保障法に基づく保険代理業

(6) 事業の規模

- ・売上高 32,252 百万円 (2013 年度)
- ・新車販売台数 9,452 台 (2013 年度)
- ・中古車販売台数 6,908 台 (2013 年度)
- ・従業員数 584 人 (派遣・パート等含む H25/3/31 現在)
- ・店舗数 スバル新車：24 中古車：7 BP工場：3
パーツセンター：1

(7) EA21 推進組織図 (平成26年3月31日現在)



※カースポット湘南は、建替えのため2013年11月より休止中

(8) 営業拠点一覧

2014/3/31現在

	拠点名	住 所	電話番号	ファックス番号	組織区分
	本 社	〒222-8571 横浜市港北区新横浜1-18-1	045-478-3611	045-478-3648	A
営業 第 一 部	金 沢 店	〒236-0003 横浜市金沢区幸浦2-3-1	045-790-5541	045-790-5561	C
	川 崎 店	〒212-0026 川崎市幸区紺屋町42-3	044-522-6211	044-522-6213	C
	新 横 浜 店	〒222-8571 横浜市港北区新横浜1-18-1	045-478-3630	045-478-3641	C
	横 須 賀 店	〒239-0835 横須賀市佐原1-10-4	046-835-0267	046-835-0269	C
	網 島 店	〒230-0071 横浜市鶴見区駒岡2-6-45	045-573-2221	045-573-2667	C
	二 俣 川 店	〒241-0024 横浜市旭区本村町44-3	045-367-0400	045-367-0411	C
	港 南 店	〒234-0053 横浜市港南区日野中央1-1-6	045-847-2221	045-847-2227	C
	新 山 下 店	〒231-0801 横浜市中区新山下2-10-7	045-628-2411	045-628-2418	C
営業 第 二 部	厚 木 ・ 伊 勢 原 店	〒259-1114 伊勢原市高森1593-1	0463-93-7761	0463-93-7762	C
	相 模 原 店	〒229-0037 相模原市中央区千代田7-5-20	042-753-2001	042-753-2695	C
	相 模 原 南 店	〒228-0814 相模原市南区麻溝台8-11-14	042-743-5110	042-743-5133	C
	海 老 名 店	〒243-0422 神奈川県海老名市中新田540-1	046-234-2611	046-234-2917	C
	登 戸 店	〒214-0023 川崎市多摩区長尾1-18-9	044-933-5211	044-933-5368	C
	青 葉 台 店	〒227-0062 横浜市青葉区青葉台1-6-2	045-983-2231	045-983-2165	C
	港 北 ニ ュ ー タ ウ ン 店	〒224-0006 横浜市都筑区荏田東2-1-84	045-943-4711	045-943-5888	C
	新 百 合 ケ 丘 店	〒215-0023 川崎市麻生区片平1-4-20	044-988-2422	044-988-2416	C
営業 第 三 部	湘 南 店	〒253-0012 茅ヶ崎市小和田3-18-20	0467-52-2516	0467-53-0071	C
	小 田 原 店	〒250-0002 小田原市寿町1-16-17	0465-34-3156	0465-34-3159	C
	平 塚 店	〒254-0013 平塚市田村2-7-40	0463-55-1411	0463-55-1414	C
	秦 野 店	〒257-0031 秦野市曾屋5786-2	0463-81-6994	0463-81-6995	C
	開 成 店	〒258-0021 足柄上郡開成町吉田島578	0465-82-5600	0465-82-0303	C
	鎌 倉 店	〒247-0051 鎌倉市岩瀬525-1	0467-44-5231	0467-44-5233	C
	泉 店	〒245-0016 横浜市泉区和泉町中ノ宮3191-15	045-802-6111	045-802-6188	C
	鎌 倉 深 沢 店	〒248-0027 鎌倉市苗田3-1-33	0467-32-8500	0467-32-7749	C
法人 営業 部	新山下業販センター	〒231-0801 横浜市中区新山下2-10-7	045-232-4472	045-628-2418	B
	厚木・伊勢原業販センター	〒259-1114 伊勢原市高森1593-1	0463-93-7677	0463-93-7762	B
	開成業販センター	〒258-0021 足柄上郡開成町吉田島578	0465-20-3043	0465-82-0303	B
中 古 車 部	カ-スホ-ット平塚	〒254-0013 平塚市田村5-4-28	0463-55-1311	0463-55-1385	B
	カ-スホ-ット相模原南	〒228-0828 相模原市南区麻溝台8-12-25	042-745-2441	042-701-9551	B
	カ-スホ-ット泉	〒245-0016 神奈川県横浜市泉区和泉町中ノ宮3191-15	045-802-7222	045-802-7401	B
	カ-スホ-ット小田原	〒250-0002 小田原市寿町1-17-18	0465-66-5533	0465-66-5534	B
	カ-スホ-ット鶴見	〒230-0017 横浜市鶴見区東寺尾中台12-31	045-572-8741	045-572-8742	B
	カ-スホ-ット新山下	〒231-0801 横浜市中区新山下2-10-7	045-622-0121	045-622-0344	B
	カ-スホ-ット新百合ヶ丘	〒215-0023 川崎市麻生区片平1-4-20	044-988-9779	044-988-0406	B
	愛川中古車センター	〒243-0303 愛甲郡愛川町中津2536-1	046-281-7270	046-286-6464	B
サー ビス 部 品 部	金沢BPセンター	〒236-0003 横浜市金沢区幸浦2-3-1	045-790-5567	045-790-5568	D
	厚木・伊勢原BPセンター	〒259-1114 伊勢原市高森1593-1	0463-93-7738	0463-93-7762	D
	愛川BPセンター	〒243-0303 愛甲郡愛川町中津2536-1	046-284-5311	046-286-6355	D
	藤沢部品センター	〒252-0816 藤沢市遠藤2007-3	0466-88-8000	0466-88-8008	E

※組織区分

- A：オフィス業務
- B：オフィス業務＋販売
- C：オフィス業務＋販売＋整備
- D：オフィス業務＋板金塗装
- E：オフィス業務＋部品販売

【2】環境方針（平成26年3月31日現在）

《基本理念》

神奈川スバル株式会社は、事業活動が地域および次世代の環境に及ぼす影響を常に考え、事業活動の全領域で、省資源、省エネルギー（CO2削減を含む）、リサイクル、公害防止に配慮した活動を行い、あわせて環境汚染を未然に防止すると共に、環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスが継続的に改善できるように推進します。これらの活動を通して、住み良い地域環境と、地球環境の実現のため、経営のあらゆる面で環境に配慮して行動します。

《基本方針》

この理念のもと、当社が行なう自動車および部品の販売、整備、修理、保険業務に関する事業活動が環境に与える影響を考慮し、以下の環境保全活動を推進します。

1. 次の環境保全の重要項目に対して、環境目標を設定し取組み、必要があれば見直しを行います。
 - ① 省エネルギーの推進（電力使用量、燃料使用量）
 - ② 省資源（水使用量、紙使用量）
 - ③ 廃棄物の排出抑制と適正処理（一般廃棄物及び産業廃棄物排出量削減）
 - ④ 化学物質管理の強化（P R T R法関連、VOC対策）
 - ⑤ エコカーの積極的な販売推進
 - ⑥ 顧客車両の整備徹底による環境影響の低減
 - ⑦ グリーン購入の推進
 - ⑧ 拠点周辺の清掃を積極的に行ない、地域の環境改善に貢献する
2. 適用する環境関連の法規制、条例、及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
3. この環境方針を全従業員に周知し、教育活動を推進します。

平成23年6月1日
神奈川スバル株式会社
代表取締役社長 笠島 三千雄

【3】環境目標

当社は、環境への負荷が大きいと考えられる《エネルギー使用量》《廃棄物の排出量》の把握をし、削減活動に重点をおく。同時に、リサイクルの推進を積極的に行う。

(1) 環境負荷の状況 (全社)

項目	単位	2012年 (基準年度)	
電気使用量	kWh	4,619,463	
燃料	ガソリン	L	775,569
	灯油	L	0
	軽油	L	54,616
	LPG	m3	30,856
	都市ガス	m3	41,842
水使用量	m3	38,810	
コピー用紙	枚	7,564,500	
一般廃棄物	t	189.6	
産業廃棄物	t	290.0	
二酸化炭素排出量	kg-CO2	4,465,345	
化学物質の管理	-	-	
エコカー販売の推進	-	-	
顧客車両の整備徹底	-	-	
グリーン購入	-	-	
社会貢献環境保全活動	-	-	

(2) 環境目標 (全社)

項目	単位	CO2 排出係数	削減目標 (対基準年)	2013年度目標	2013年度実績	削減状況	2014年度目標
電気使用量	kWh	0.375kg-CO2/kWh	基準年以下	4,619,463	4,631,933	0.3%	4,619,463
燃料	ガソリン	L	0.0671kg-CO2/MJ	775,569	715,897	-7.7%	775,569
	灯油	L	0.0679kg-CO2/MJ	0	0	-	0
	軽油	L	0.0687kg-CO2/MJ	54,616	52,111	-4.6%	54,616
	LPG	m3	0.0598kg-CO2/MJ	30,856	26,827	-13.1%	30,856
	都市ガス	m3	0.0513kg-CO2/MJ	41,842	38,190	-8.7%	41,842
水使用量	m3		基準年以下	38,810	37,117	-4.4%	38,810
コピー用紙の削減	枚		基準年以下	7,564,500	7,470,500	-1.2%	7,564,500
一般廃棄物	t		基準年以下	189.6	183.8	-3.1%	189.6
産業廃棄物	t	廃油：2900kg-CO2/t	基準年以下	290.0	276.1	-4.8%	290.0
二酸化炭素排出量	kg-CO2		基準年以下	4,465,345	3,847,541	-13.8%	4,465,345
化学物質の管理	-	-	-	適正な管理	-	-	継続実施
エコカー販売の推進	-	-	-	75.0%	84.8%	-	85.0%
顧客車両の整備徹底	-	-	-	整備徹底	-	-	継続実施
グリーン購入	-	-	-	85.3%	84.9%	-	85.3%
社会貢献環境保全活動	-	-	-	活動推進	-	-	継続実施

※電気使用量のCO2排出係数について

- ・基準年度及び目標数値は平成23年度の東京電力の値(0.464)を使用して算出しています。
- ・実績数値は平成24年度の東京電力の値(0.525)及び出光グリーンパワーの値(0.086)を使用して算出しています。

※化学物質の管理について

- ・VOC規制にかかる塗料は、引き続き二石の使用を実施
- ・シンナーは、使用時以外は密閉容器での保管を実施

【4】環境活動計画及び取組

(1) 環境目標（全社）

- ① 電気使用量削減
 - ・節電への取組強化（昼休み、未使用時の消灯）
 - ・ショールーム消灯時間の徹底（原則19時30分とする）
 - ・冷暖房の室温管理（事務所について、夏季28℃ 冬季20℃の定温管理）
 - ・新店舗へのLED照明器具の導入
- ② 燃料使用量削減
 - ・効率的な車の使用により、ガソリンを削減する
 - ・アイドリングストップの推進
 - ・エコ運転の推進（エコドライブ5ヶ条の励行）
 - ・社有車・営業車のエコカーへの代替え
- ③ 水道水の使用量削減
 - ・オフィスでの節水活動推進
 - ・洗車時の節水
- ④ 紙（コピー用紙）の使用削減
 - ・電子文書の使用拡大
 - ・コピー削減および裏紙再使用
- ⑤ 一般廃棄物の削減
 - ・分別再資源化の強化
- ⑥ 産業廃棄物の削減
 - ・マニフェストの完全運用
 - ・分別再資源化の強化
- ⑦ 二酸化炭素排出の削減
 - ・電気・燃料の使用削減の推進

(2) その他の取組

- ① エコカー販売の推進（EyeSightの販売推進）
- ② 顧客車両の整備徹底
- ③ グリーン購入の推進
- ④ カラーコピーの使用削減
 - ・カラーコピーの原則禁止
- ⑤ 廃自動車部品のリサイクルの順守
- ⑥ 環境関連法の順守（社員および関係者への教育）
- ⑦ 化学物質管理の強化
- ⑧ 拠点での社会貢献環境保全活動の推進
 - ・警察と連携した地域交通安全活動への参加（交対協など）
 - ・事業所周辺の清掃活動
 - 地域密着型拠点実現のため地域社会への環境活動を進める
 - 地域町内会・自治会との協力等

※本取り組みは、次年度以降も継続実施し、必要に応じて見直しを実施いたします。

【5】環境活動の取組結果と評価

(1) 実績

項目	単位	基準値	2013年度目標値		実績と評価		
		2012年 (基準年度)	削減目標 (対基準年度)	年間目標	実績	削減状況 及び判定	
電気使用量	kWh	4,619,463	基準年以下	4,619,463	4,631,933	0.3% ○	
燃料	ガソリン	L	775,569	基準年以下	775,569	715,897	-7.7% ○
	灯油	L	0		0	0	- -
	軽油	L	54,616		54,616	52,111	-4.6% ○
	LPG	m3	30,856		30,856	26,827	-13.1% ◎
	都市ガス	m3	41,842		41,842	38,190	-8.7% ○
水使用量	m3	38,810	基準年以下	38,810	37,117	-4.4% ○	
コピー用紙	枚	7,564,500	基準年以下	7,564,500	7,470,500	-1.2% ○	
一般廃棄物	t	189.6	基準年以下	189.6	183.8	-3.1% ○	
産業廃棄物	t	290.0	基準年以下	290.0	276.1	-4.8% ○	
二酸化炭素排出量	kg-CO2	4,465,345	基準年以下	4,465,345	3,847,541	-13.8% ○	
化学物質の管理	-	-	-	適正な管理	-	- ◎	
エコカー販売の推進	-	-	-	75.0%	84.8%	- ◎	
顧客車両の整備徹底	-	-	-	整備徹底	-	- ◎	
グリーン購入	-	-	-	85.3%	84.9%	- ○	
社会貢献環境保全活動	-	-	-	活動推進	-	- ◎	

判定記号：◎期待値より大幅に達成 ○期待値レベルの達成 ×未達成

※コピー用紙の枚数は購入枚数で集計しています。

※電気使用量のCO2排出係数について

- ・基準年度及び目標数値は平成23年度の東京電力の値(0.464)を使用して算出しています。
- ・実績数値は平成24年度の東京電力の値(0.525)及び出光グリーンパワーの値(0.086)を使用して算出しています。

※化学物質の管理について

- ・VOC規制にかかる塗料は、引き続き二石の使用を実施
- ・シンナーは、使用時以外は密閉容器での保管を実施

(2) 数値目標を達成するための取組結果と評価

① 電気使用量削減

- ・上期の夏の記録的暑さによる増加を下期で挽回したが、あと一步及ばず0.3%の増加となった。

② 燃料使用量削減

- ・ガソリンについては、2013年度目標に対して7.7%の削減となった。
- ・灯油については、高圧洗車機のスチーム機能を使用しないことで使用量が0となった。
- ・軽油については、2013年度の目標に対して4.6%の削減となった。
- ・LPGについては、月々のムラが無く削減され、2013年度目標に対して13.1%の削減となった。猛暑と暖冬による温水の使用量減も要因と考えられる。
- ・都市ガスについては、下期半ばが減少傾向にあり、2013年度の目標に対して8.7%の削減となった。都市ガスは、12月～1月の温暖により暖房使用量が減ったと考えられる。

③ 水道水の使用量削減

- ・11月以降、カースポット湘南が建替えのため休止になったこともあり4.4%の削減となった。

④ 紙(コピー用紙)の使用削減

- ・2013年度目標に対して1.2%の削減となったが、更なる削減に取り組む。

- ⑤ 一般廃棄物の削減
 - ・ 2013年度目標に対して、3.1%の削減となったので現状を維持したい。
 - ・ 可燃・不燃・用紙と、全ての項目で削減がすることができた。
- ⑥ 産業廃棄物の削減
 - ・ 2013年度の目標に対して4.8%の減少となったので現状を維持したい。
- ⑦ 二酸化炭素排出量の削減
 - ・ 12月より電力需給先を一部変更したことにより、排出係数が小さくなり13.8%の削減となった。

(3) その他の取組結果と評価

- ① エコカー販売の推進について、EyeSightの販売を推進し、展開車両の84.8%に装着されている。
- ② 顧客車両の整備徹底により、整備在庫台数が全年より4%増加した。
- ③ グリーン購入の推進
 - ・ 購入額のうち、84.9%がグリーン対象商品であった。
- ④ カラーコピーの使用削減
 - ・ カラーコピーの原則禁止の意識は高まっているものの、まだ充分でないので、さらなる徹底を図る。
- ⑤ 廃自動車部品のリサイクルの推進
- ⑥ 環境関連法の順守にむけ、社員および関係者へさらに理解を深める。
- ⑦ 化学物質の管理について、第一種指定化学物質の含有が少ない溶剤の使用を継続している。
- ⑧ 拠点での社会貢献環境保全活動の推進
 - ・ 警察と連携した地域交通安全活動への参加（交対協など）を実施した。
 - ・ 事業所周辺の清掃活動
 - 日常活動の中での清掃活動はできているので、今後も継続実施していく。

【6】環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

(1) 適用となる環境関連法規

主な適用法規	要求事項	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設設置の届出（自動車自動洗浄装置等）	○
下水道法	排水施設の設置義務 特定施設の届出	○
廃棄物処理法	マニフェスト集計・報告 収集運搬・処分業者との契約	○
消防法	少量危険物貯蔵届出	○
騒音規制法	特定施設の届出	○
振動規制法	特定施設の届出	○
化管法（P R T R法）	排出量・異動量の把握と届出	○
自動車リサイクル法	引取業届出 使用済自動車の適正処理	○
NO _x ・PM法	適合車両の使用	○
浄化槽法	設置届出 定期点検実施	○
家電リサイクル法	対象機器の廃棄の際、適切な引渡し及びリサイクル料金の支払い	○
省エネルギー法	定期報告書、中長期計画書の提出	○

(2) 訴訟、違反等

当社における環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘は過去3年間ありません。

【7】代表者による全体の評価と見直し

2013年度は、年度後半からの消費税率アップ前の駆け込み需要もあって、新車販売、整備入庫をはじめ事業活動が全般に渡って好調であったこと、また、夏の暑さが記録的であったことなどの影響で電気使用量が環境目標をわずかに上回ってしまいましたが、それを除けばほぼすべての項目で環境目標を達成することができました。これは、社内における環境活動の取組みの浸透がさらに進んでいることの現れだと考えます。

今回から全社環境目標を、「基準年度（2012年度）の実績の維持」に変更しましたが、これには、事業活動が拡大しても、気を緩ませることなく、2012年度の水準を岩盤目標として維持していこうという意味があります。2013年度については、上記のとおり、全社的にはほぼすべての項目で達成していますが、拠点別にみると取組みにはまだ格差がみられます。今後安定的に全社環境目標を達成するためには、内部監査等による継続的なチェック、アクションでマネジメントサイクルを回し、拠点間格差をなくしていくことが必要です。会社としてしっかり対応していきたいと考えます。

また、リニューアブル拠点への環境配慮型設備（LED照明、遮熱対策等）の導入等、ハード面でのバックアップについても着実に進めていきたいと考えています。